

# 序

勉強熱心な救急医，総合内科医の先生方から「眼科，耳鼻咽喉科，皮膚科，泌尿器科の問題について遭遇することが多いのですが，どのように勉強したらよいでしょうか？」と質問されることがあります。すべての診療科がそろっている総合病院で研修している皆さん，「患者さまが〇〇科での診療を希望されています。よろしくお願いします」と対診依頼を書いておしまいにしていませんか？ 将来，すべての診療科がそろった環境に勤務するとは限りませんし，総合病院でも夜間・休日にいつでもこれらの診療科の専門医に診療を依頼できる環境というのは，よほど充実した施設を除いてはまずありません。

では，すべての診療科をローテーションするには時間的な制約があつて難しい現状で，研修期間中にこれらの領域にある程度対応できる知識・技能を習得するためにはどうしたらよいでしょうか？

最も現実的な対応は，これらの領域の症例に遭遇して専門医の先生方に診察を依頼したら，すべてをお任せにして知らんぷりをするのではなく，必ず診察に同席し，どのような診察・処置を行うのかを見学させていただき，「次から自分にできることはないか」と考えるという経験を蓄積していくことが非常に重要であると感じます。

まとまった研修期間を確保することが難しい環境でも，偶然遭遇したこれらの診療科の問題について，専門医にその都度学びながら研修する際に，何かよいガイドブックになる教材をつくることはできないだろうかと考えていた折に羊土社より今回の企画のお話をいただきました。千載一遇の機会に，救急・外来・病棟で日夜奮闘している研修医やジェネラリストの気持ちと，その領域の専門医としての考え方の両方を備えたわが国でも大変貴重な先生方に各領域の編集をお願いすることができ素晴らしい内容となったことを確信しています。執筆をお願いした先生方には，実際にジェネラリストが遭遇することが多い症例を呈示していただき，「ここまでは一般医で行ってよい（行うべきである）」「このサインがあつたら専門医に相談が必要」という線引きを基本的なところから実践的に解説いただきました。

本書を手にする研修医の皆さんが医師を志した動機はさまざまでしょうが，「目の前に困っている人がいたら，自分の専門分野にかかわらず何かできることをしたい」という想いは共通であると思います。本書の内容が皆さんの熱い想いを達成する手助けとなればこれ以上の喜びはありません。

さあ，いっしょに勉強しましょう！！

2014年9月

藤田保健衛生大学病院 救急総合内科  
岩田充永